

ロック機構 (オプション)

使用上の注意

⚠️ 注意

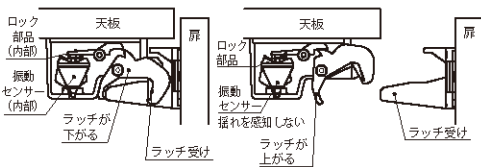
- 地震のあと、傾きが正常に戻れば、ロックが解除されますので、最初に扉をあけるときの、収納物の飛び出しにご注意ください。
- ロック機構は収納物の破損を防止するものではありません。
- 本体やラッチ受けをむやみに取り外したり、分解しないでください。正常に作動しなくなる恐れがあります。
- 本体とラッチ受けの間に物を挟まないでください。
- ロック機構周辺に磁力のある物を近付けないでください。
- 本体やラッチ受けの角で頭をぶつけないようご注意ください。思いがけないケガをする恐れがあります。
- 本体に汚れや水滴がついた場合は、乾いた布で拭き取ってください。
- 揺れ感知式のため手荒く開閉すると、誤作動が起こる場合があります。扉はゆっくり開閉してください。

使い方

※キャビネットの設置状態、収納物の形状や地震の規模、揺れ方によっては、ロック機構が働かない場合があります。

ロック機構の働き (注:通常の使用時においては、ロックは作動しません)

通常時

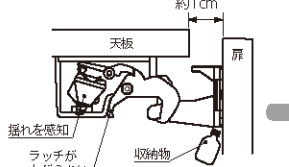


扉が閉まった状態

扉が開いた状態

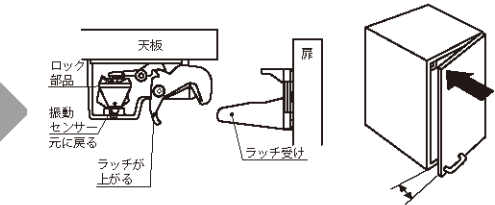
- 揺れがないときはロック機構が作動しません。扉を開くとラッチが上がりますので、開閉に支障はありません。

地震のとき



- 地震などの揺れを感知するとロック機構が作動し、ラッチが上がらなくなるためラッチ受けがラッチに引っ掛かり、扉が開放するのを防ぎます。ただし、約1cmほど扉は開きます。

揺れが収まったとき こんなときは…



- 地震の揺れが収まって静止状態になるとロックが自動的に解除されます。扉があいているときは、扉が閉まるまで押してください。キャビネット中の状態を確認しながら静かに扉を開けてください。
- 収納物によっては、少し扉があいてロック状態になることがあります。このときは、扉のロック機構が付いている付近を強く押すと、ロックが解除されます。

ロック誤作動時の解除方法 (注:通常の使用時においては、この方法を行う必要はありません)

万一、扉がロック状態になり開かなくなったときは、下記の方法で強制解除を行ってください。

収納物の飛び出しにご注意ください。



- ①扉を開くと1cmほどのすき間ができます。ドライバーなど先の細い工具を差し込みます。
- ②差し込んだ工具でラッチ受けを押し下げます。

調整の方法

- ①扉の蝶番を調整する。
 - 蝶番の調整で扉のすき間を合わせてください。
- ②ラッチ受けと本体の固定を確認する。
 - ラッチ受けと扉、本体と天板の間にすき間がないようにビスを締めなおしてください。
- ③ラッチ受けが上下にスライドすることを確認。
 - ビスの締め過ぎでラッチ受けがスライドしない場合は、緩めてください。
- ④動作を確認する。
 - 扉を4~5回開き動作に問題がないか確認してください。
 - ラッチ受けをスライドさせた場合でも同様に確認してください。

